



ohsumi wangan times

# 志布志岸 タウンズ

¥0  
TAKE FREE

第4号

特集

# 浪漫に溌ちた大隅路を歩く

黒潮にのつてやつてきた民族の源流

起源がここにあつたら

密集する古墳群の謎



毎秒5000万tもの海水を押し出す黒潮の大きな流れは、太古より、さまざまな文物と渡来人をわが国にもたらしてきました。志布志湾岸周辺に密集するおびただしい数の古墳群と、その奥に鎮座する山陵を目の当たりにして、大隅の地は日本史の起源に関わる重要な地であったのではないかと、僕たちは考えざるを得ませんでした。いま、はるかな時の向こうに埋没しかけている歴史資産を掘り起こし、新たな日本史を探求する。そんな知的な好奇心をくすぐる、志布志湾岸の歴史紀行へ、一緒しませんか？

の彼方、民族の源流に出会える地、それが大隅です。

## 黒潮と志布志湾

南方から日本列島近海に流れ来る黒潮は、速いところで毎秒2m以上、毎秒5000万tもの海水を輸送します、まさに大海の中に敷かれた潮のベルトコンベアード。この潮の流れに乗れば、原始的な舟であっても、労せずして遙か離れた土地にたどり着くことが可能でした。黒潮寄せる志布志湾岸は古くから、海の向こうからさまざまの人や物が渡来する南九州の海の玄関口です。

## 出土品からのヒント

大隅半島の古墳からは、また、数々の貴重な副葬品等が出土しています。中でも九州で一番目に大きい前方後円墳からは朝鮮半島系と考えられる土器が出土しています。そのほか一帯の墳墓からは、全国的にも貴重なデザインの象嵌が付いた太刀や勾玉、埴輪など貴重な史料が見つかっています。いまだ解明されていない事柄が多い大隅半島の古墳群ですが、太古の日本史を解く大きな鍵が眠っているのかかもしれません。

大隅半島に行こう！

## 吾平山陵と天皇家

志布志湾岸に密集する墳墓の最南端にある鹿屋市吾平町の山中に位置する吾平山陵（あいらのやま）のみささぎ、あいらさんりょう）に祀られているのは、日本の初代天皇である神武天皇の御父君であるウガヤフキアエズノミコト（天津日高日子波限建鶴草葺不合命）と、御母君であるタマヨリヒメノカミ（玉依姫）だ。吾平山陵の所在地については、鹿児島・宮崎両県に5～6ヶ所の伝説があるが、明治7年、宮内庁によりこの地が御治定になり、宮内庁の管轄になっている。

## 日本書紀に見る大隅

『日本書紀』に「大隅」の地名が見られるのは天武天皇（在位673～686年）の御世になつてからのこと。天武11年（683年）7月、薩摩隼人と大隅隼人を呼び寄せ相撲をとらせ、大隅隼人が勝つたという記述も見られる。また『和名類聚楽抄』には、6世紀後半には大隅隼人の集団が山城国綾喜郡大住郷（現在の京都府京田辺市大住）に居住していたとの記述もあり、大隅隼人は、王や天皇の守護職との関係が深かつたと考えられている。

## 大隅上陸後の足取り

志布志市・大崎町を山と山の間を抜けて北上すれば「西都原古墳群」がある。前方後円墳31基、円墳279基の他に地下式横穴墓、横穴墓など311基のさまざまな古墳が存在する国内有数の古墳群だ。志布志湾岸の古墳群との関係性は、果たしていか

### 日本史時代の流れ

- 旧石器時代**
  - 紀元前25000年 始良カルデラ噴火（紀元前24000年前） 狩猟・漁撈・採集の生活
  - 紀元前12500年 磨製石器・弓矢が出現
  - 紀元前9000年 上野原遺跡などの定住集落跡 漁撈活動活発化・貝塚
  - 紀元前3000年 漆塗りなどの小型土器発達 市来式土器・指宿式土器が盛ん 装身具・呪術的な道具発達
  - 紀元前100～800年 稲作始まる 九州北部に稻作と金属器が到来
  - 紀元前400年 小国家の発生 青銅器の伝来
  - 西暦1年 小国分立 倭の奴国王、後漢に入貢 この頃水稻耕作、東北南部まで広まる
  - 西暦100年 山ノ口遺跡・王子遺跡 倭国大いに乱れる（147→189） 松木園遺跡
  - 西暦200年 倭の女王卑弥呼・帶方郡に遣使（239） 古墳文化発達
  - 西暦400年 倭郡、帶方郡で高句麗に敗北 横瀬古墳
  - 西暦500年 倭王済、宗中國、五代の分裂を統一した王朝に朝貢 成川式土器
  - 西暦527年 磐井の反乱（527） 仏教伝来（538）
  - 聖徳太子摂政となる（593）

# 大隅古墳マップ

沢山の古墳群に、剣をはじめ興味深い出土品の数々、そして天皇・皇后の墓塚「吾平山陵」…ここには壮大なドラマがある。

## 西都原古墳

宮崎県西都市。標高60mの洪積層台地を中心に東西2.6Km、南北4.2Kmの広い範囲にわたって「西都原古墳群」は分布している。現在までの発掘調査より3世紀半ばから7世紀前半に築造されたと推定され、前方後円墳31基、円墳279基、方墳1基、地下式横穴墓、横穴墓など、311基の古墳で構成された全国有数の大古墳群である。古墳の大部分はいまだに発掘をされておらず、謎を残している。この西都原古墳群と志布志湾岸の古墳群の関連を推理してみると、古代史への浪漫はさらに膨らんでくる。



## ひとつの仮説が浮かび上がってくる。定説よりリアリティがある。

志布志湾周辺には多くの古墳や伝説が残されており、さらに、初代天皇である神武天皇の御父君・御母君の墓塚「吾平山陵」もある。また志布志には、天皇行幸の伝説も根強く存在する。これらのことから、かつての志布志湾岸に海の彼方から統治者が辿り着いて上陸、そしてそこに集落が形成され、その痕跡として古墳群が築かれたという見方ができるかもしれない。なにより、いきなり山の中に文化が芽生えたと考えるより、海を渡り、海沿いに集落や文化が芽生えたと考える方が自然ではなかろうか…。そんな想像力や推理力を働かせながら大隅をめぐれば、旅はきっと、もっとドラマチックだ!



横瀬古墳

## 塚崎古墳群 肝付町

## 唐仁古墳群 東串良町

## 祓川地下式横穴墓群 鹿屋市

## 岡崎古墳群 鹿屋市串良町

## 中尾地下式横穴墓群 鹿屋市吾平町

南九州の人吉・霧島・錦江湾、そして屋久島沖の硫黄島あたりを結ぶ約150kmには、多くのカルデラや成層火山があり鹿児島火山性地溝と呼ばれ、約30万年前から活動を始めたと考えられている。旧石器時代の約2万5千年前に姶良カルデラで発生した姶良大噴火以前は大隅半島中部に浅い海が広がっており、鹿児島湾と志布志湾が接続していたと考えられている。約1万3千年前から始まる縄文時代草創期は南九州から始まつたのではないかと思われるほど、鹿児島県内各地に集落跡が発見されている。上野原遺跡（霧島市国分）は日本最古級の大規模集落跡が発見されたことで有名だが、約7300年前鬼界カルデラの破局的噴火で南九州の一部では数百年間、動植物は生存できなかったと考えられている。

噴火から千年以上たった縄文時代前期には再び人が住めるような環境ができあがったようで、その後、弥生時代、古墳時代と時代が進んでいった。過去の人間の営みの跡がのこされているところが遺跡といわれているが、3世紀後半から7世紀前半に築造された墳丘を持つ古い墓を特に「古墳」と呼び日本史では区別している。そこで大隅半島の古墳について集めてみた。



鹿屋市西祓川町にある遺跡です。発掘の結果「地下式横穴墓」が30基を超える密集した状態で見つかりました。その中からは、死者を弔った時に一緒に入れた「蛇行剣」という珍しい形の剣も見つかっています。付近では、「短甲・衝角付冑」なども発見されている。また、墓域内で良好な祭祀土器群が出土している。（右の写真参照）

日本列島最南端の前方後円墳を含む古墳群である。前方後円墳の数4基・円墳が39基、地下式横穴墓が10基程度ある。そのうち塚崎39号墳（花牟礼古墳）が日本列島最南端の前方後円墳である。昭和20年に国指定史跡となっている。

現在までに25号墳では小型丸底壺と器台が出土した。また、43号墳でも小型器台が出土している。ともに古墳時代前期に属する。18号墳では壺形埴輪が2個体出土している。二重口縁壺と単口縁壺各1個体ずつで、古墳時代前期後葉から中期前葉に位置づけられる。この埴輪は上半を赤色塗装しており、底部には焼成前穿孔がある。

古墳時代前期にこの古墳群の造営がはじまっていることが明らかになってきていている。

畑作などによって古墳の削平が進行しており、周囲が大きく削られている古墳や埋没古墳などが多いと考えられている。

現在は、古墳の上に大塚神社が建立されている。石棺の蓋は山頂の社殿の下に覗いている。役所塚古墳（100号墳）全長57メートル（推定）、薬師堂古墳（16号墳）全長約44メートル程度、福留塚古墳（17号墳）直径35メートル高さ5.5メートル円墳、向塚古墳（33号墳）最大の円墳で直径42メートル、高さ5.5メートル、葺石が確認されている。



蛇行剣



供献土器

現状で前方後円墳2基、円墳20基（大正時代は30基以上を数えた）から成り立っている。地下式横穴墓は、大型のものが知られ、11基確認されている。イモガイ製鉤、瀧子（しょうす・ピンセツ）メートル、後円部径65メートル、前方部幅36メートル、後円部高10.7メートル、前方部高4メートルで、後円部墳頂には墳丘主軸に併行する堅穴式石室があり、花崗岩の巨石による蓋石がある。石棺は舟形石棺で石材は凝灰岩とされている。短甲が出土している。

現在は、古墳の上に大塚神社が建立されている。石棺の蓋は山頂の社殿の下に覗いている。役所塚古墳（100号墳）全長57メートル（推定）、薬師堂古墳（16号墳）全長約44メートル程度、福留塚古墳（17号墳）直径35メートル高さ5.5メートル円墳、向塚古墳（33号墳）最大の円墳で直径42メートル、高さ5.5メートル、葺石が確認されている。

中尾地下式横穴墓群からは大地の下を流れる姶良川も、その周囲に広がる田園も全く望むことができない。当時、象嵌技術が南九州になかつたことからも、中央との交流によって持ち込まれたと考えられている。



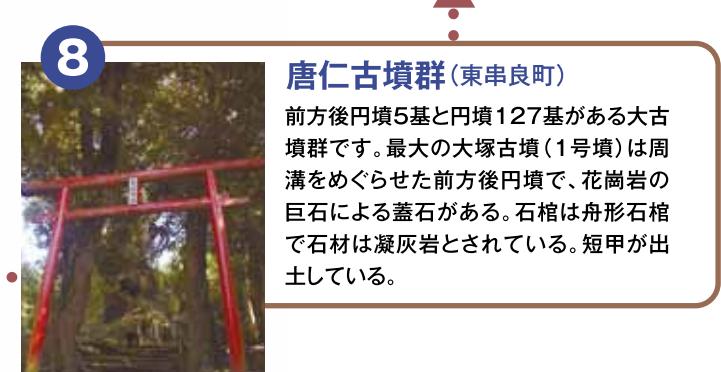
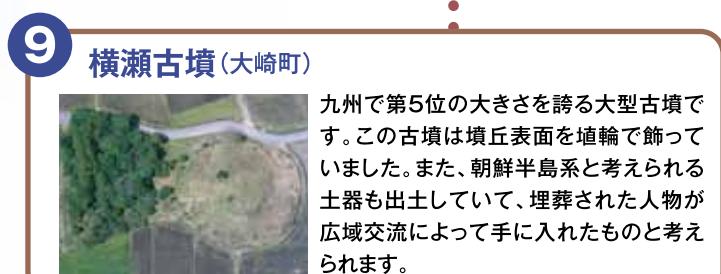
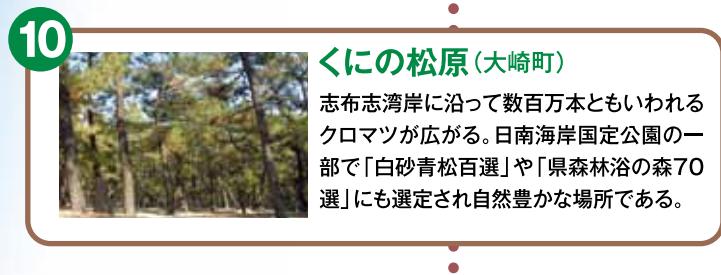
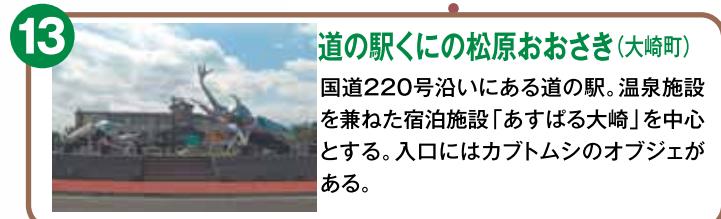
岡崎15号墳



象嵌装太刀  
大刀（たち=全長72cm）

鹿屋市吾平町の中尾地下式横穴墓群6号墳の地下式横穴墓から見つけた鐵刀に、「心葉形」の銀の象嵌が刻み込まれていたが、これは鹿児島県で初めての発見であり、また全国を見渡しても「心葉形」（ハートマークの中に葉脈のような線が刻まれている）の太刀は16箇所しか出土していない貴重なものである。

鹿屋市吾平町の中尾地下式横穴墓群6号墳の地下式横穴墓から見つけた鐵刀に、「心葉形」の銀の象嵌が刻み込まれていたが、これは鹿児島県で初めての発見であり、また全国を見渡しても「心葉形」（ハートマークの中に葉脈のような線が刻まれている）の太刀は16箇所しか出土していない貴重なものである。



## コースの他にもある古墳や史跡の数々

遺跡や横穴墓群など、太古の人々の証がしっかりと、時空を超えて残ってる。  
一片の土器に、現代に残った古墳に、当時の暮らしを想像するのも浪漫である。

### ●祓川地下式横穴墓群(鹿屋市)

鹿屋市西祓川町にある遺跡です。発掘の結果「地下式横穴墓」が30基を超える密集した状態で見つかりました。その中からは、死者を弔つた時に一緒に入れた『蛇行剣』という珍しい形の剣も見つかっています。付近では、「短甲・衝角付冑」なども発見されています。

### ●原田古墳(志布志市有明町)

直径40m、高さ15mの大型円墳(未発掘調査)。古墳の裾から20mほどのところに地下式横穴墓が見つかる。副葬品は刀子だけで成人女性の墓だった。



### ●飯隈古墳群(大崎町)

飯隈古墳群は大崎町の南部、飯隈台地の中央部に位置している。南に約2Kmの位置に神領古墳群、さらに南へ約3.5Kmの位置に横瀬古墳が存在するなど高塚古墳の集中する地域だ。

### ●中尾地下式横穴墓群(吾平町)

地下式横穴墓から見つかった鉄刀に、「心葉形」の銀の象嵌が刻み込まれていたが、これは鹿児島県で初めての発見であり、また全国を見渡しても「心葉形」(ハートマークの中に葉脈のような線が刻まれている)の太刀は16箇所しか出土していない貴重なものである。

# 大隅の古墳時代を歩く。

大地をふきわたる風の中、海をわたり、野山を駆け巡った古代の人々を感じる旅に出ませんか？

彼らの歩いた道をたどれば、遙かな過去へのタイムトラベルの始まりです。

## 1 串良歴史民俗資料室(鹿屋市串良町)

鹿屋市内で出土した埋蔵物を中心に展示。特に岡崎古墳群から出土した勾玉や鉄鎌や短甲など貴重な資料が多数展示してあります。  
 ○開館時間／9:00～16:30  
 ○休館日／毎週月・祝日(年末年始)  
 ○電話 0994-63-5030

## 2 大塚山公園(鹿屋市串良町)

畠地帯に飛び出た海拔108.9mの小高い丘にある丘陵公園です。頂上の展望台からは東に志布志湾、南西に開聞岳が眺望できます。

## 3 岡崎古墳群(鹿屋市串良町)



現状で前方後円墳2基、円墳20基(大正時代は30基以上を数えた)から成り立っている。地下式横穴墓は、大型のものが知られ、11基確認されている。イモガイ製釧、瀧子(しようす:ピンセット状の鉄器)、須恵器大甕が出土。

## 4 吾平山陵(鹿屋市吾平町)



鹿児島県の神代三山陵の一つです。山陵とは、一般に天皇・皇后の塚墓のことであり、吾平山陵の祖靈は、神武天皇の御父君・鶴草葺不合命(ウガヤフキアエズノミコト)、そして御母君である玉依姫(タマヨリヒメノカミ)のものとされています。

## 5 塚崎古墳群(肝付町)



日本列島最南端の前方後円墳を含む古墳群である。前方後円墳の数4基・円墳が39基、地下式横穴墓が10基程度ある。そのうち塚崎39号墳(花牟礼古墳)が日本列島最南端の前方後円墳である。1945年に国指定史跡となっている。

岡崎古墳群から出土した勾玉



## 鹿児島大学総合研究博物館常設展示室

890-0065 鹿児島市郡元1-21-30  
 常設展示室 TEL:099-285-7259  
 開館時間 午前10時～午後5時(入場は午後4時30分まで)  
 休館日 毎週 日・月曜日、祝日、年末年始  
 観覧料 無料  
 交 通 鹿児島市バス「農学部前」下車

## 6 肝付町立歴史民俗資料館(肝付町)

塚崎古墳群の出土品などの歴史・考古資料を中心として展示しています。  
 ○開館時間／9:00～16:30  
 ○休館日／毎週月・祝日(年末年始)  
 ○電話 0994-65-0170



中尾地下式横穴墓群から出土した全長72cmの象嵌装太刀



## 横瀬古墳

大崎町



面積 6417 平方メートル・長さ 124 メートル、幅（前方）63 メートル後円 63 メートル）、高さ（前方 15 メートル、後円 13 メートル、くびれ幅 45 メートル）の大型古墳です。九州で第 5 位の大きさを誇ります。この古墳は墳丘表面を埴輪で飾っていました。

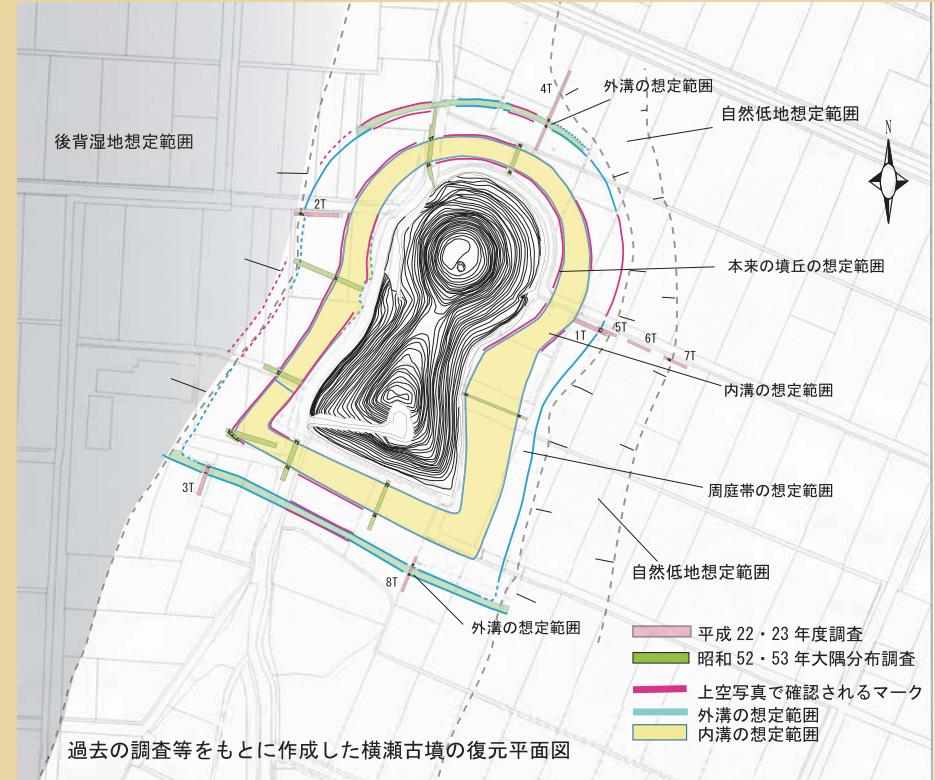
また、朝鮮半島系と考えられる土器も出土していて、埋葬された人物が広域交流によって手に入れたものと考えられます。明治時代に盗掘され、竪穴式石室から、よろいや剣などが出土したと言られています。

古墳の周囲に周溝を発見。航空写真でみると一目前方後円墳の形がわかります。近づいてみるとさうに起伏もあって、きれいな形をしていります。前方部には神社が建立されています。



昭和 52・53 年の鹿児島県教育委員会の確認調査で明らかにされた周溝のクロップマーク・ソイルマーク

この写真で新たに見出されたクロップマーク・ソイルマーク

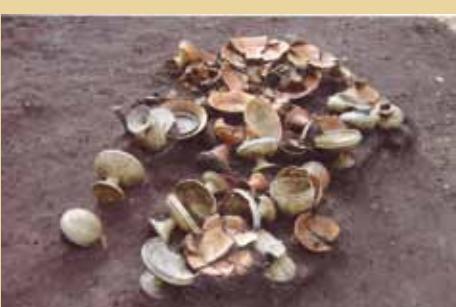


平成 19 年、一枚の広報写真から新たな発見がありました。横瀬古墳の航空写真をよく観察してみると、盛り上がった部分のまわりに帯のようなものが確認できます。

横瀬古墳に周溝が廻っていますことは昭和 52・53 年にかけて鹿児島県教育委員会が行つた発掘調査で明らかにされました。また、周溝は、さらに外側に周溝らしきものが見える写真によると、さらに外側に周溝らしきものが見える写真によると、さらに外側に周溝らしきものが見える

いたことは昭和 52・53 年にかけて鹿児島県教育委員会が行つた発掘調査で明らかにされました。また、周溝は、さらに外側に周溝らしきものが見える写真によると、さらに外側に周溝らしきものが見える

眉庇付冑形埴輪  
まびさしつきかぶと  
平成 18 年の発掘調査で見つかる。



これまで 13 基の古墳・8 基の地下式横穴墓の存在が確認され、うち 4 基は前方後円墳と考えられ、円筒埴輪、形象埴輪、眉庇付冑形埴輪が出土。舟形石棺と初期須恵器が特徴。

神領 10 号墳は、削平されて小さくなっていますが、全長 60 メートル、現存墳丘の高さ 4 メートルを測る中型の前方後円墳であることがわかりました。唐仁大塚古墳、横瀬古墳の巨大古墳の次に大きいのが 60 メートル級の古墳です。これら巨大古墳に葬られた人物に次ぐ地位にある人の墓と考えられます。土器や埴輪などの出土遺物から古墳時代中期中葉の年代に位置づけられ横瀬古墳と密接な関係を伺うことができます。

さらに、佐多岬、大塚山公園の展望台、国際の森公園、ダグリ岬遊園地観覧車、輝北上場（きぼくうわば）、公園、鳴之尾（めいのう）、牧場、霧島ヶ丘公園、くにの松原など家族連れには最適です。

初日の出（はつひので）とは、1 月 1 日（元日）の日の出（太陽が水平線や地平線から姿を現す様）のこと。日本では一年に一度の最初の夜明けとしてめでたいとされています。この習慣は明治以降に盛んになったと言われています。四方拝という天皇の元旦の儀式が始まりで、それが庶民の間に現在の形で広まり、初日の出を拝むという習慣になりました。また、信仰の対象としての日の出を「御来光」と呼びます。季節柄、曇りや雨の多い日本海側よりも、晴天の多い太平洋側の方が見られる確率が高いようです。

## 神領古墳群

大崎町

大隅半島は、東に太平洋に面しております。布志から佐多岬に至る海岸線であればほとんどの海岸線で臨むことができます。誰でも簡単に日の出のポイントまで出向くことができます。

この横瀬古墳も国指定重要文化財に指定されていますが、発掘調査はされていません。唐仁古墳群、塚崎古墳群との関連性などまだ多くの謎が残っています。

## 飯隈古墳群

大崎町



遺物のようなものが露出している。

飯隈古墳群は大崎町の南部、飯隈台地の中央部に位置しています。南に約2キロメートルの位置に神領古墳群、さらに南へ約3.5キロメートルの位置に横瀬古墳が存在するなど高塚古墳の集中する地域です。

5世紀半ば頃の地下式横穴墓群。飯隈5号墳・8号墳・9号墳の3つの高塚古墳以外に地下式横穴墓が10基。そのうち鷺塚地区地下式横穴9号・11号の堅穴の上からは祭祀に使われたと思われる土器が出土しています。

この原田古墳から西に一キロメートルほど行くと本宮橋があり、その橋の近くにコノハナサクヤヒメを祭神とする都萬神社の旧宮があつたとされ、天文九年大崎町上町に遷座されたと『三国名勝図会』に記録されています。現在でも旧宮があつたところを「元宮」と呼んでいます。

## 原田古墳 志布志市有明町

## 飯盛山古墳 志布志市



吾平山上陵（あいらのやまのう）のみささぎ、あいらさんりょう（う）は、ウガヤフキアエズノミコト（天津日高日子波限建鶴草葺不合命）とタマヨリヒメノカミ（玉依姫）の陵墓。可愛山陵、高屋山上陵とともに神代三山陵の一つ。島（ダグリ岬）に築かれた前方後円墳。以前は国民宿舎「ボルベリアダグリ」の敷地内にあったが建設の際取り壊され現在は見る事はできない。

墳丘80メートルを測る。近隣平野部にある古墳の中では最古と言われている。

壺形埴輪、円筒形土器、ガラス製勾玉（まがたま）ガラス丸玉が出土している。

【ダグリの由来】  
ダグリは駄縄里と書き、かつての荷駄の検査をした関所跡との地名由来のようです。

【壺形埴輪】  
戸六社権現がありました。明治4年の災害により現在地に遷座し、名称も鶴戸神社に改められています。

【山と丘】  
①山と丘。丘陵。

②天皇や皇后の墓。みささぎ。

【ひとこと】  
ウガヤフキアエズの埋葬地

は、日本書紀に「吾平山上陵」と記されてますが、その伝承地は南九州各地にあります。明治7年、明治政府はそれらの中から、旧薩摩藩の学者の意見を参考にして鹿児島県鹿屋市（旧肝属郡吾平町）を「吾平山上陵」に治定しました（他の日向三代の神陵も鹿児島県内に治定しています）。

しかし、日向の人々からの反論があり、国学者や宮内庁の調査によって、明治29年、鶴戸神宮背後の速日峯山上が「御陵墓」に治定されました（他の日向三代の神陵も鹿児島県内に治定されています）。

しかし、日向の人々からの反論があり、国学者や宮内庁の調査によって、明治29年、鶴戸神宮背後の速日峯山上が「御陵墓」に治定されました（他の日向三代の神陵も鹿児島県内に治定されています）。

## 吾平山稜 鹿屋市吾平町

今回の新聞では「大隅半島の古墳時代の古墳」をテーマに編集しましたが縄文時代、弥生時代の遺跡も非常に多く国内でも珍しい出土品が近年も多く発見されています。



平成24年天神段遺跡（大崎町野方）で出土した西日本最古の石剣  
真岩（けつがん）製、長さ35cm、幅2.9cm、厚さ1.5cm、重さ300g

# 大隅東部歴史ロード

遺跡や横穴墓群など、太古の人々の証がしっかりと、時空を超えて残ってる。一片の土器に、現代に残った古墳に、当時の暮らしを想像するのも浪漫である。

リナシティ  
かのや 県道  
68号 県道  
539号 県道  
73号 県道  
539号 国道  
448号 国道  
220号 県道  
508号 志布志駅

約36km(約5分)  
※所要時間は時速40kmで計測

大隅半島の東部エリアには、歴史遺産や古墳等が多く点在しており、それらを活かしたドライブルート「大隅東部歴史ロード」を設定しました。このロード付近には、多くの歴史スポット等が点在していますので、同スポット巡りに御活用ください。



## 古墳の出土品の展示施設

串良町歴史民俗資料館	鹿屋市串良町有里507-1	TEL 0994-63-5030
鹿屋市王子遺跡資料館	鹿屋市北田町11110番地1	TEL 0994-31-1138
輝北歴史民俗資料館	鹿屋市輝北町百引2635	TEL 0994-86-0505
大崎町中央公民館郷土資料室	大崎町仮宿1029	TEL 099-476-0548
肝付町立歴史民俗資料館	肝付町野崎1936	TEL 0994-65-0170
松山歴史民俗資料館	志布志市松山町秦野547	TEL 099-487-8154
末吉歴史民俗資料館	曾於市末吉二之方2020	TEL 0986-28-8051

大隅郷土館	曾於市大隅町中之内9146	TEL 099-482-2410
財部郷土館	曾於市財部町南俣460-1	TEL 0986-72-1111
曾於市埋蔵文化財センター	曾於市大隅町月野1946-1	TEL 099-471-2877
鹿児島大学総合研究博物館常設展示室		TEL 099-285-8141
鹿児島県上野原縄文の森		TEL 0995-48-5701
旧吉松家住宅	串間市大字西方5509-1イ	TEL 0987-72-6511

中尾地下式  
横穴墓群から  
出土した全長72cmの  
象嵌装太刀

せん。(ほり)  
がるきつかけができるかもしけ  
がるきつかけができるかもしけ  
興味のない方も、いつかはつな  
しいんだと最近気づきました。  
こと。  
年をとることで学んできた色々  
なことがだんだんつながってい  
く、このつながっていくことが楽  
しいんだと最近気づきました。

年をとることで学んできた色々  
なことがだんだんつながってい  
く、このつながっていくことが楽  
しいんだと最近気づきました。  
こと。  
かで年代を決めるのに役立つ  
ました。

南九州には、阿蘇カルデラ、加  
久藤カルデラ、小林カルデラ、始  
良カルデラ、阿多カルデラ、鬼界  
カルデラなどたくさんのカルデラ  
があり大噴火があったこと。この  
大噴火のときの火山灰が地層のな  
どで年代を決めるのに役立つ  
ました。

ヌーで大崎町の海岸から北海道地  
球岬まで航海したこと、沖縄か  
ら鹿児島までシーカヤックで渡っ  
てきたこと、これらがつながって  
大隅の太古の歴史に輝きを見つけ  
ました。

歴史に全く興味がなく古墳と遺  
跡の違いも知らなかつた私が興味  
を持ち始めたのは今から6年前、  
その頃に吾平山陵を訪ねた時の不  
思議感、地形、海流、そして、そ  
の数年前、友人が全長5メートル  
そこそこの小さなセーリングカ  
ラで大崎町の海岸から北海道地  
球岬までシーカヤックで渡っ  
てきたこと、これらがつながって  
大隅の太古の歴史に輝きを見つけ  
ました。

【編集スタッフ後記】  
これでタブロイド新聞は4回目  
の作成になりますが、大隅に少し  
でも足を運んでもらいたいという  
思いでテーマを決めて取材に駆け  
りまわって作成しております。  
いろんなテーマのうちで今まで  
取り組んだ情報の中で一番不完全  
燃焼だった「古墳」というテーマ  
で作成しました。

## 発行編集

特定非営利活動法人 湾岸こっち隊 理事長 楠原秀尉  
〒899-7302 鹿児島県曾於郡大崎町神領2419番地  
TEL 099-477-2400 FAX 099-477-2407

編集スタッフ 堀之内裕行 門倉恵介 尾上朋子  
豊田教平 徳永美幸 松之段けい子  
平山奈津子 河野精一

## デザイン

ZO CREATIONS  
〒893-1605 鹿児島県鹿屋市串良町上小原4939-6  
TEL / FAX 099-463-0137

鹿児島県大隅地域振興局業務委託 大隅の宝さがし & 宝づくり事業情報誌発行  
平成24年 発行部数 2万部  
フリーペーパー (無料配布)

大隅のFM放送は全局ネットワーク、インターネットでも聞くことができます。

FMかのや 77.0MHz FMきもつき 80.2MHz FM志布志 78.1MHz FMたるみず 77.0MHz

おおすみ東風隊 presents  
**みごろ、たべごろ、大隅こっち隊**

毎週金曜日 おひる 12:30 から30分

再放送日 每週木曜日より 22:00 ~ 22:30 土曜日あさ 08:30 ~ 09:00

大隅の観光を中心に、旬のおいしいもの、歴史、ポイントなど見どころを話題に30分間のトーク番組です。  
リスナーの皆様からのお便り、リクエストなどお待ちしております。また、地域の情報もお寄せください。

番組に関するご意見、ご要望、リクエストなどは下記の事務局までお願いいたします。

事務局 おおさき観光案内所

TEL 099-477-2400

FAX 099-477-2407

[www.ohsumi.info](http://www.ohsumi.info)

mail@ohsumi.info

ohsumi wangan times No.4